

## 2006年11月28日開催 第513回 番組審議会

### ■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 大村英昭委員 木下明美委員  
國定浩一委員 黒田勇委員 藤原健委員  
東野博昭委員(書面参加)

### ■ 毎日放送出席者

山本社長 石橋専務 本多専務 西常務 田中常務 上田常務  
東編成局長 三村制作局長 熊広報室長  
山西報道局長 岡山ディレクター

### ◆テレビ番組

#### 「映像'06 今を刻んで～若年認知症とともに～」

11月17日(金) 27時50分～28時50分放送

毎日放送の第513回番組審議会は11月28日大阪市北区の本社で開かれ、11月17日(金)27:50～28:50放送のテレビ番組「映像'06 今を刻んで～若年認知症とともに～」を審議しました。

「若年認知症」とは65歳未満で発病する認知症。40代、50代の働き盛りで発病するため、休職や退職を余儀なくされ、本人や家族の経済的、精神的ダメージは大きい。番組は若年認知症の男性とその妻の、2組の夫婦の日常生活を綴っていく。平成18年度文化庁芸術祭参加作品。

#### 委員の主な意見

- \* 夫婦とは何か、きずなとは何か、生きるとは何か、身につまされる思いで見た。  
奥さんの奮闘ぶり、夫婦の愛はよく描かれていたが、家族離散のケースなどの実情、政府や行政の対応にも触れてほしかった。
- \* 「今を刻む」という、まさしくその感じで記憶が次々と失われていって、最後は妻であるとか、自分の名前も言えなくなる。その間、自覚があって、本人の

悩み、悲しみ、葛藤はものすごい。そこを描いてほしい。

\* レベルの高い、感動的な番組。2組とも女性がケアする立場だが、女性が患者で夫が介護するという逆のパターンがあれば、より説得力があったと思う。

\* どうしようもない深い悲しみの中での、ある癒し、ある種のファンタジーを見つけるのは、大事なジャーナリスティックな作業かもしれない。一般的なドキュメンタリーとは違うが、私はすばらしいファンタジー・ドキュメンタリーだと思った。

\* どんな言葉を費やしても、新聞でも、写真でもだめ。あの映像でしか伝えられないものを伝えたというすごさ。みんなが見られる時間帯で再放送を。

\* 今の状態になるまでの、本人や家族の苦しみ、いら立ち、悲しみが伝わってくる。なぜこんなに静かに受けとめて、受け入れられているのだろう。

\* 見る人の胸に衝撃と、感動と問いかけをもたらしてくれる。番組の構成がやや平板で、めりはりが不足していると感じた。続編を期待する。

\* 病いを扱いながら、実は「夫婦の物語」として見せている、そこが見やすく、身近に考えられた。

◆ 11月4日放送の「2006ミズノクラシック」の中継で、録画映像の時間と生放送の時間が近接しているように番組を編集し、実際にはなかった順位表を放送した」ことについて、広報室長が報告をしました。